

ミューズ NO.11 平和のための博物館市民ネットワーク通信

発行：2003年12月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安齋育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumeai.ac.jp>

平和博物館国際ネットワークのニュースレターは、まだ発行されていませんが、11月に立命館大学国際平和ミュージアムで平和のための博物館・市民ネットワークの会議が開催されましたので、その様子と国内の平和博物館の活動などをお伝えします。

平和のための博物館・市民ネットワーク第3回全国交流会の報告

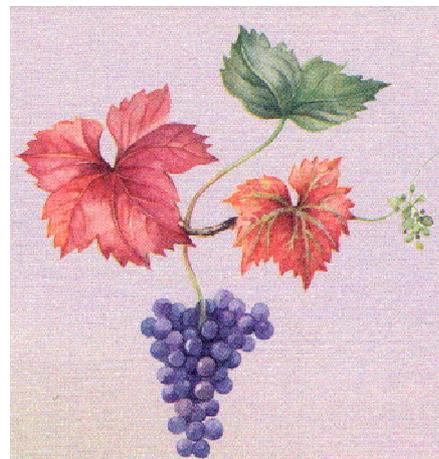
国際平和ミュージアム 山辺昌彦

2003年11月15日(土)と16日(日)の両日、立命館大学国際平和ミュージアム2階の204会議室において、42名の参加で平和のための博物館・市民ネットワーク第3回全国交流会が開催されました。

報告は以下の11本が行われました。

- 1 「女たちの戦争と平和資料館」建設委員会、池田恵理子さん「『女たちの戦争と平和資料館』実現に向けて」
- 2 立命館大学国際平和ミュージアム、岡田英樹さん「ミュージアム10年の歩みとリニューアル・高度化の課題」
- 3 ナヌムの家、矢嶋宰さん「ナヌムの家・日本軍『慰安婦』歴史館について」

- 4 北海道開拓記念館、寺林伸明さん「歴史系博物館の戦争関係展示について」
- 5 南守夫さん「自衛隊関係戦争博物館について(中間報告)」
- 6 都立第五福竜丸展示館、安田和也さん「ビキニ水爆実験・第五福竜丸被災50周年記念プロジェクトについて」
- 7 草の家、山根和代さん「平和博物館国際ネットワークの現状と課題」



- 8 草の家、キム・ヨンファンさん「侵略と抵抗、アジア共通の歴史認識を考える」
- 9 都立第五福竜丸展示館、藤田秀雄さん「平和学習センターとしての平和博物館」
- 10 太平洋戦史館・花岡千賀子さん「ヨーロッパ平和博物館で学んだこと」
- 11 太平洋戦史館・岩淵宣輝さん「戦没者遺骸捜査継続で、人権無視と人命軽視の戦前の呪縛を解く」

今回は、平和のための博物館・市民ネットワークが単独で開催した初めての交流会でしたが、報告をめぐって活発な質疑が行われました。戦争の悲惨さの伝え方について、強烈な写真を展示した場合に、若い人に見た後の処置をどうしたらよいか、地域史研究に裏打ちされた加害展示について、自衛隊の戦争展示の批判の仕方について、などが議論になりました。これらについては、次回以降の交流会で議論を深めようということになりました。

交流会の最後に、参加されても報告はされなかった博物館、姫路市平和資料館・大阪国際平和センター・丹波マンガン記念館・東京空襲戦災資料センター・丸木美術館の方たちに、館と事業の簡単な紹介を話していただきました。

報告とは別に、平和のための博物館・市民ネットワークの会計報告・事業報告がなされ、今後の活動について協議しました。会計報告は別項に載せた通りです。来年度については、事務局は引き続き、立命館大学国際平和ミュージアムが担い、ニュースは草の家の山根和代さんを中心に編集し、日本文・英文各2回発行しますが、全国交流会は2004年11月27日(土)と28日(日)

に、東京大空襲・戦災資料センターの梶慶一郎さんと都立第五福竜丸展示館の安田和也さんのお世話により、東京で開催することになりました。交流会の内容は事務局で準備します。事務局あてに、来年の交流会のテーマや報告者についてのご意見をお寄せ下さい。

平和のための博物館・市民ネットワークの会計報告(2002年8月~2003年10月)

会計報告

収入

会費	2 4 4 0 0 0 円
カンパ	7 0 0 0 円
繰越	2 0 6 6 5 円
計	2 7 1 6 6 5 円

支出

送料	4 9 4 1 0 円
繰越	1 2 2 2 5 5 円
計	2 7 1 6 6 5 円

内訳

会費

99年度	12人	2 4 0 0 0 円
00年度	14人	2 8 0 0 0 円
01年度	21人	4 2 0 0 0 円
02年度	27人	5 4 0 0 0 円
03年度	46人	9 2 0 0 0 円
04年度	2人	4 0 0 0 円
計	122人	2 4 4 0 0 0 円

送料

日文8号	1 0 3 1 0 円
日文9号	1 9 0 2 0 円
英文8号	3 7 5 8 0 円
日文10号	1 9 5 0 0 円

英文9号	5 2 6 8 0 円
交流会通知	1 0 3 2 0 円
計	1 4 9 4 1 0 円
繰越	
郵便振替	1 2 1 7 3 0 円
現金	5 2 5 円
計	1 2 2 2 5 5 円

参考

個人会員	8 4 人
2010年まで納付	1 人
2005年まで納付	2 人
2004年まで納付	4 人
2003年まで納付	4 6 人
2002年まで納付	1 4 人
2001年まで納付	2 人
2000年まで納付	2 人
1999年のみ納付	4 人
会費納付なし	9 人
退会	3 人

資料館建設を夢みながら

全国交流会に参加して

「女たちの戦争と平和資料館」

建設委員長 池田恵理子

末期ガンを宣告された松井やよりさんが、「そこへ行けば『慰安婦』の資料がすべて集まっているような資料館を作ろう！」と宣言して、あっという間に亡くなってからほぼ1年。建設委員会を立ち上げてからまだ半年あまりの私たちを、全国交流会に呼

んでくださったことに、まず感謝したい。現在は建設のための募金活動と、資料の整理・保存問題、資料館のコンセプトの絞り込みに取り組んでいる。夏頃から、国内外の戦争博物館・平和記念館の視察を始めたところだ。「訪ねたい」と思っていたミュージアムの先輩たちの話を間近に聞いたことは、極めて刺激的で有益だった。

「アメリカのイラク侵略に対する反戦運動は世界中に広がったが、日本の平和博物館はどのような役割を果たしたのか？」という発言を重く受け止めた。資料館が、女性の人権や反戦・平和活動の拠点でもありたいと考えている私たちにとって、大きな課題である。また各地の自衛隊の戦争博物館について、「そこでは戦争の加害にも被害にも触れない。愛国は語るが、戦争を語らない」と言われた報告には共感した。交流会の1週間後、遊就館見学ツアーに参加したとき、この言葉を思い出した。国立の戦争博物館が日本の戦争の加害を語れない状況が、今日の「戦争ができる国へまっくら」を作っているのではないか。



左から、山口真氏と池田恵理子氏

一方で戦争の現実を展示した場合、子どもたちがそれを受け止めきれずに心理的な傷を負う心配があり、リアルな展示を自粛する傾向があるという。この議論も印象的だった。今年の夏訪問したドイツの戦争博物館でも、女性たちの性被害を若い世代にどう伝えていくかを試行錯誤中だった。戦争・紛争下における女性への性暴力の資料館を作ろうとしている私たちには、切実な問題である。重要な問題提起をいただいたと思っている。

私たちは「慰安婦」支援運動や女性国際戦犯法廷の準備過程で、アジア各国の被害女性と日本軍元兵士の証言をビデオカメラで記録してきた。だから映像記録によるオーラルヒストリーのアーカイブを充実させたいのだが、これに関しては「ネット上でシェアできないか」「集めた映像資料の保存や公開について、意見を聞きたい」など、何人もの方から声をかけられた。技術革新のおかげで、資料の劣化を防ぐデジタル化が急速に進んでいる。今後の模索を多くの方と共有していけたら素晴らしいと思う。

戦争の国際関係史を追求しない 日本の博物館の現状について

北海道開拓記念館 寺林 伸明

「日本の歴史系博物館における戦争展示について」と題して、昨年おこなった全国の博物館・資料館のアンケート調査について報告した。その目的は、明治期以降の戦争とその関係史について、資料を収集・展示する各館の展示ほかの活動状況を把握し、あわせて国際関係史のあつかいについても

設問するものだった。この調査は、「日本の博物館における明治以降の戦争関係史展示の現況と国際関係認識の課題について」というテーマで、文部科学省の科学研究費補助金（基盤研究(c)キ(2)）をうけている。参加メンバーは、北海道開拓記念館、仙台市歴史民俗資料館、大阪人権博物館、立命館大学国際平和ミュージアムの各歴史系博物館の学芸員5名である。

このアンケートは、2003～04年に予定する本調査の準備として、博物館・資料館の現況を知るとともに、実地調査の対象館を選択するための予備情報を集約する意味をもっていた。現時点では、仮集約の域をでず、メンバーとの検討もおこなってないため、あくまで寺林個人の所見を述べたものである。まず220館に対しておこなったアンケートの館分類と、それぞれの送付数、回答数、該当数を、以下にかかげる。

・歴史系博物館(国、都道府県・市町村、私立)	: 112	74	45
・平和博物館・祈念館	: 45	19	16
・旧陸海軍・戦没者関係の神社・遺族会の資料館	: 23	6	5
・自衛隊駐屯地資料館	: 40	15	10

計 220 114 76

アンケートの趣旨に該当したのは76館だったため、これらの傾向を見ると、おおくの館が戦時下(銃後)のくらしと、空襲など末期の被害を展示していた。末期における「内地」被害に比して、それ以前も含めた「外地」の日本人、諸民族の被害は、解説に触れられるか、ほとんど見られない。地元の軍隊や企業、軍人、軍属、移民たち

が、戦地、占領地、植民地で活動した歴史は、皆無にひとしい。概して、戦争の前史と経過、戦時体制と動員状況など、戦時と前後する時期をふくめた社会や歴史の動きを知るための情報が、非常に限られ、しかも偏っているという印象である。

つまり、国際関係を具体的に理解するための地方史展示が追求されない状況があり、それは戦争の国際関係を地方史から問う研究が稀薄な結果とも云えるのではないだろうか。

平和のための博物館・市民ネットワーク第3回全国交流会に参加して

山口 真

埼玉県立平和資料館運営委員 10年間の総括として次の目的で参加した。

- 1 現存する日本の平和博物館の基本理念と基本方針はどんなものか
- 2 平和博物館における展示と説明文はどうあるべきか
- 3 現代の若者たちにどのような平和学習を平和博物館で行ったらいいか
- 4 平和博物館研究の研究紀要はどんなものが要求されるか
- 5 現在札幌に計画中の樺太記念館の方向はどうあるべきか
- 6 立命館大学国際平和ミュージアムの見学

* 平和博物館の歴史認識について

北海道開拓記念館の寺林伸明氏は「日本の博物館における明治以降の戦争関係史展示の現況と国際関係認識の課題について」のアンケート調査の中間発表をおこなった。

これは近代日本が経験した戦争の国際関係史について、日本の歴史系博物館では、どのように表現され、利用者の歴史認識を深めるためにどのような役割をはたしているかを、把握することを目的としたものであった。

その中間報告の要旨は次のとおりであった。

- 1.戦時下(銃後)のくらしと空襲を主とするものが、大半を占めている。
- 2.銃後の支援についても、戦時体制や動員政策との関係、経過はよわい。
- 3.末期の「内地」日本人被害に比して、「外地」の日本人被害や他民族への加害については、解説に触れる程度か、ほとんどない。
- 4.わずかな加害についても、「内地」における強制連行問題に限られる。
- 5.地元の軍隊や企業、軍人・軍属・移民たちが、「外地」の戦地・占領地、植民地で活動した歴史を取り上げているのは、皆無に等しい。



左から、岡田氏、安斎氏、山辺氏、藤岡氏、梶氏

- 6.背景にあった植民地、権益地、派遣軍駐留地との関係、戦争経過と地元の動き、

特定の「外地」と地元との関係など、国際関係を具体的に理解するための地方史展示が、ほとんど追求されていないのが現状である。

7.いまだ戦争の国際関係を地方史から問う調査研究が稀薄な結果ではないか。

中間発表の 5,6,7 について計画中の樺太記念館はこの問題を取り上げようとしている。2004 年は日露戦争 100 周年にあたる。ポーツマス条約によって南樺太が日本の領土となった。そこには 50 年にわたる日本人の開拓史があり、第 2 次世界大戦の最後の激戦地は沖縄ではなく樺太であったことは知られていない。中学校歴史教科書を見ても樺太については皆無に等しい。ペレストロイカ以降多くのロシア人歴史学者や樺太在住の朝鮮人が樺太についての研究発表や書物を出版している。ロシアの歴史学者ミハイル・ヴィソーコフは論文「樺太・千島小史」の中で領土問題についてヤルタ協定(1945 年 2 月)は「多くの枢軸軍のうちロシア、アメリカ、イギリスの 3 カ国のみによって会談され、署名されたことを明記している。サンフランシスコ講和条約(1951 年 9 月)締結においてソ連代表団は対日講和条約に南サハリンおよびクリール諸島に対するソ連の主権を確認する条項を入れるよう要求した。だが、この条項は入れられなかった。サンフランシスコ講和条約本文には、単に日本がクリール諸島ならびにポーツマス条約により取得したサハリン島の一部と同島に付属する島嶼に対する一切の主権と請求権を放棄することが語られたに過ぎなかった。日本がどの国のために当該領土を

放棄したかについては全く触れられなかった。」と記述している。これを見る限り、樺太は国際法上ロシアの領土ではない。スターリンの政策により、ロシア人が大量に樺太に移住してきたに過ぎない。私はこの地が国連の信託統治になることを望んでいる。現在樺太はサハリン石油・天然ガス開発プロジェクトに米・英・ロシア・カナダ・スウェーデン・日本等が参加し、その様相は一変し、世界の注目の的となっている。現代史においてこの問題をどう取り扱うかは今後の課題となろう。

* ジェンダー・戦争・平和について

「女たちの戦争と平和資料館」が松井やよりさんの遺志をついで戦時性暴力を中心に女性・戦争・平和問題に精力的なチムワクのもとに取り組んでいる現状報告を聞き、永い歴史におけるジェンダーと戦争問題がいよいよ総合的に真正面から取り上げられる時期が到来したことを嬉しく思った。今年 9 月新潟で開催された第 9 回全国女性史研究交流の集いのテーマは「戦争から人権の世紀へ女性史からの検証」であった。300 人の参加者があり、85 歳の元従軍看護婦もいた。その中で問題になったのはオーラル・ヒストリーの問題であった。

* 自衛隊内の戦争記念館について

南守夫氏の自衛隊内の戦争記念館に関する研究の中間報告は平和博物館に対する新しい問題提起であった。自衛隊内の戦争記念館は 戦争史博物館なのか、戦争博物館なのか、そのなかに自衛隊員の平和学習の分野をとりいれるべきなのか、将来どんなスタンスで行くべきなのか、平和問題関係

者に大きな課題を残した。配布された資料の南守夫氏の作成した「近代以後のドイツ及び日本に関連する主な戦没者追悼所、戦争記念碑、戦争記念館等の分類略年表」は多大な研究の成果である。

* オーラル・ヒストリーについて

英国エセックス大学社会学教授ポ・ルトンプソンの著書「記憶から歴史へ-オーラル・ヒストリーの世界」が出版されてから、この問題が盛んに注目されるようになった。私は74歳のインタ・ビュー-を受ける年齢であり、それならば自分で書いてみようということで「戦争の記憶から-17歳の太平洋戦争」を書いてみた。記憶を歴史に残すためにはただ語り部の記憶を記述するだけでは歴史につながらない。語る言葉の背景にある経済的、社会的、法制的現実の分析がなければ歴史の一コマにはなり得ないだろう。また現在多く書かれている戦争についての自分史群をどのように整理、研究して庶民の歴史につなげ、平和博物館で展示すればよいのであろうか。

* ドイツ成人教育協会国際協力研究所 (D V V)

そこでは「歴史を取り扱う方法に関するセミナー」を2002年10月に開催し、バルカン地域で紛争を青年期に経験した現在30歳の青年が参集し、平和学習のための多様な方法を開発した。これは「未来のための記憶」プロジェクトと呼ばれる。参加型の平和学習である。

* 立命館大学国際平和ミュージアム
平和問題を考えさせ、学習させるこんな

ミュージアムが日本に存在することを誇りにおもった。戦後の思いきった立命館大学の建学の精神、「きけ わだつみのこえ」を核とした総合的な丹念な平和に関する調査研究をもとにした展示は他に類をみない。常設展示詳細解説書は平和学習指導書として内容豊富で簡潔にして理解し易い。中でもテーマ1の軍隊と兵士、学問思想への弾圧、文化の統制と動員、抗日運動、テーマ第2次世界大戦と戦争責任、テーマ3現代における戦争と平和の項は他では余り社会的には書かれていないと思う。京都の具体的な事例は見学者に理解され易い。見学者がゆっくりと平和を考えるスペースも充分にとつてある。多目的使用であるかもしれないが。

多くの平和博物館が設立10年を経て、リニューアルの時期にあるという。今回の全国交流会はそれを相互検討する最良の機会であったと思う。

日本各地のニュース

太平洋戦史館：岩手

9月10日東京で第二回総会が開催されました。同時に、ヨーロッパの平和博物館国際会議の報告もされました。戦史館は、「忘るまじ、語り継ごう次の世代へ、そしてプラスの国際交流」を合言葉に、戦跡調査、資料の常設展示、国際協力活動を続けています。今後、展示資料を解説できる学芸員養成やホームページの準備が始まります。

(戦史館だより第42号より)

Tel: 017-52-3000 Fax: 0197-52-4575

平和文化史料館・ゆきのした：福井

ゆきのした文化協会代表の加藤忠夫氏によると、7月26日、27日に愛知県豊橋市で第33回九州と戦災を記録する会全国連絡会議が開かれました。その際、「まさか？」と思うようなビラが配布されたそうです。「もうひとつの戦争展：語り継ぎたい隠された歴史」に関するビラで、「日本は侵略のために戦争を起こしたのではない！国家の存亡をかけた、自衛のためのたたかいであった。」と書かれていました。この展示会は8月に豊橋だけでなく、東京、大阪、名古屋、福井でも行なわれました。加藤氏は「まさか？と思うことがはじまっているのです。いま、あらためてみんなでありのままの歴史を、それを裏付ける史料をもとに、たしかめあうときだと思います」と書いておられます。

Tel & fax: 0776-52-2169

埼玉県平和資料館

戦時下の女性のくらし、銃後の守り、戦時下の女性労働、戦後の女性たちについて展示する、企画展「女性たちの戦中・戦後」が企画展示室で、2003年7月23日～9月15日の会期で開催され、図録も刊行されました。関連して、講演会が8月10日に開かれ、女性史研究家の折井実耶子さんが「女性たちが経験した戦争」と題して講演しました。

テーマ展「雑誌の表紙に見る世相」が企画展示室で、2003年10月21日～12月7日の会期で開催されました。

戦争関連遺跡見学会が、2003年9月20日に開催され、上福岡市の旧東京陸軍第一造兵廠川越製造所あとを見学しました。

戦争体験者との交流会として、2003年7月19日に「広島での被爆体験」を、11月22日に「シベリア抑留の体験」を、体験者からそれぞれ聞く会が開催されました。

特別映画会が講堂で開かれ、2003年7月12日には「黒い雨」などが、8月15日には「二十四の瞳」などが、それぞれ上映されました。

映画会が講堂で開かれ、2003年9月13日には「星空のバイオリン」などが、12月13日には「十六地蔵物語」などが、それぞれ上映されました。

(「埼玉県平和資料館だより」11巻1号・2003年7月5日発行より)

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://village.infoweb.ne.jp/~pms>

丸木美術館：埼玉・東松山市

陶板作品を展示する、企画展「悼 - 刻まれたホロコーストへの鎮魂詩」関谷興仁展が2003年7月8日から9月6日の会期で開催されました。

イラク戦争中バクダッドに滞在して子どもをはじめとする市民生活を撮った写真を展示する、企画展・豊田直巳写真展「戦火の下子どもたち」が2003年9月9日から10月12日の会期で開催されました。

(「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」77号・2003年7月11日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/-marukimsn>

藤市立歴史民俗資料館：埼玉

第 14 回企画展「15 年戦争の記憶 - 銃後の女性たち」が企画展示室で、2003 年 8 月 1 日～ 9 月 7 日の会期で開催されました。

Tel:048-432-2477

ジョン・レノン・ミュージアム：埼玉

このミュージアムはジョン・レノンの生誕 60 年にあたる 2000 年 10 月 9 日にオープンしました。

オノ・ヨーコ氏の正式な許諾を受け、世界で初めて日本に常設のミュージアムとして開設されたものです。

ジョン・レノンは、20 世紀を代表するアーティストとして多くの人々に影響を与えてきました。その影響は単に音楽の分野にとどまることなく、様々な分野に及ぶものであると言われていています。

このアーティストの生涯と作品を、21 世紀に正しく伝えたいという願いからこのミュージアムをつくりました。

このミュージアムは 2000 年 5 月にまちびらきを迎えた新しいまち「さいたま新都心」の中核施設である音楽とスポーツの殿堂、「さいたまスーパーアリーナ」の中に開設されました。

ミュージアム内にはジョン・レノンゆかりの楽器・衣装・作詞原稿など、オノ・ヨーコ氏所蔵のメモラピリアを中心に約 130 点を展示しております。

住所：〒330-9109 さいたま市中央区新都心 8 番地

さいたまスーパーアリーナ内

Tel:048-601-0009 Fax:048-601-0010

開館時間：午前 11 時から午後 6 時まで

休館日：毎週火曜日

(火曜日が祝日の場合は営業し、翌水曜日を休館) 年末年始

入場料：大人 1500 (1300) 円

高大生 1000 (800) 円

小中生 500 (400) 円

() 内は障害者割引 及び 20 名様以上の団体料金

上記の情報は、下記のホームページから入手しました。

<http://www.taisei.co.jp/museum/museum.html>

国立歴史民俗博物館：千葉・佐倉市

1996～2000 年度に行われた基幹研究「近現代兵士の実像」の報告書が国立歴史民俗博物館研究報告として 2003 年 3 月 31 日付で刊行されました。研究報告第 101 集「村と戦場」は岩手県和賀郡藤根村(現・北上市)の元小学校教師高橋峯次郎宛、7000 通以上の軍事郵便を対象とするもので、第 102 集「慰霊と墓」は大阪の旧真田山陸軍墓地を対象とするものです。

Tel:043-486-0123 Fax:043-486-4209

せたがや平和資料室：東京

特別展「苦難の日々と平和へのあゆみ」が、世田谷区立教育センター 1 階エントランスホールにおいて 2003 年 8 月 1 日～31 日の会期で開催され、戦争の流れや戦後の平和のあゆみを写真や実物資料で伝える展示をしました。

Tel: 03-3703-8100

豊島区立郷土資料館：東京

2003 年度第 1 回収蔵資料展「戦争と豊島区 2 - 戦地・兵舎から家族への手紙 - 」が 2003 年 8 月 6 日～9 月 28 日の会期で開催され、南方へ行った兵士の軍装品、集団疎開学童の家族宛書簡、兵士の家族宛書簡、空襲体験手記・被災品などを展示しました。これは、1995 年に開催された特別展「戦争と豊島区」を補うものです。

Tel: 03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

第五福竜丸展示館：東京

「福竜丸だより」が通巻 301 号となりました。301 号には、「岡本敏子さんに聞く：岡本太郎とビキニ事件」が載せられています。岡本太郎さんは、現代の代表的な画家、彫刻家、著述家、多様なジャンルの芸術家でした。(1996 年 84 歳で逝去)その太郎さんが、原水爆に衝撃を感じ、ビキニ事件に心を留め、第五福竜丸を描いた作品があります。東京の青山に、岡本太郎祈念館があり、館長の岡本敏子さんのお話が載っています。

Fax: 03-3521-2900

E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp

葛飾区郷土と天文の博物館：東京

葛飾区内の戦争考古学や空襲関係資料などとともに原爆関係資料を展示する、「平和祈念資料展」が特別企画展示室で、2003 年 7 月 25 日～8 月 10 日の会期で開催されました。

Tel:03-3838-1101 Fax:03-5680-0849

福生市郷土資料室：東京

「平和のための戦争資料展」が 2003 年 6 月 28 日～9 月 28 日の会期で開催されました。

Tel:0425-53-3111

高麗博物館：東京

3 月 1 日に「3・1 朝鮮独立運動記念シンポジウム」が開催されました。また 3 月から 7 月まで、朝鮮史講座が開かれました。8 月 20 日から 9 月 28 日まで関東大震災 80 年ミニパネル展示「描かれた朝鮮人虐殺」が行われました。

Tel & fax: 03-5272-3510

E-mail: kourai@40net.jp

神奈川県立地球市民かながわプラザ

絵本作家の葉祥明さんの絵本『あの日の夏』の原画と原爆写真パネルと被爆品を展示する、「あの夏の日の記憶 - 長崎原爆資料

館所蔵品展 - 」が、3階企画展示室で、2003年8月1日～31日の会期で開催されました。

「スポーツの喜び」をテーマとする2002年のコンテストの入選作品を紹介する「ユネスコ・アジア太平洋写真展 - スポーツの喜び - 」が、3階企画展示室で、2003年10月10日～26日の会期で開催されました。（「地球市民レポート」17号・2003年10月1日発行より）

Tel: 045-896-2121 Fax:045-896-2945
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/plaza>

平塚市博物館：神奈川

平塚市博物館は2003年3月15日付で、平塚の空襲と戦災を記録する会編『市民が探る平塚空襲 資料編(1)』を発行しました。これは3分冊の1冊目で、旧大野町の戦災者調査書などが収録されています。

Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

日吉台地下壕保存の会：神奈川

5月17日に総会が開かれ、保存の会の初代会長である永戸多喜男名桜義塾大学名誉教授が「追悼の中から：戦時下の日吉キャンパスを語る」と題して講演されました。

活動方針の一つとして、「日吉台地下壕平和資料館建設を目指し、実現に努力すること」を決めました。

Tel: 045-562-0443
<http://www.geocities.HeartLand-Hanamizuki/2402>

瑞浪陶磁資料館：岐阜

企画展「代用陶磁器 - 素晴らしき陶業界の対応力 - 」展が2003年7月20日～9月7日の会期で開催されました。

Tel:0572-67-2506

松代大本営の保存をすすめる会：長野

7月21日には信州大学愛敬浩二教授の「今こそ考えるべき平和憲法の意味」という講演会が開催されました。

8月10日には地下壕の親子見学会が行なわれました。見学を通して、戦争の真実の姿を改めて知り、平和を築きとおすことの大切さを考えてもらえたのではなかったかと思います。（ニュース153号）

また7月3日には、大阪朝鮮高級学校の3年生220人が見学しました。また7月には韓国生協のかたがた17人も地下壕を見学し、ホームステイもしました。ある韓国の女性は、「ホームステイはこわかった。でも日本の人はみんな親切、とてもうれしかった。今度は韓国へホームステイで来て下さい」と話してくれました。

紙面の都合であまり紹介できませんが、ニュースの「保存運動」で、豊かな活動内容が毎月紹介されています。

Tel & fax: 026-228-8415

E-mail: kibonoie@infoweb.ne.jp

静岡平和資料センター：静岡

2005年の8月は、戦後60年になります。そこで戦災の絵（特に旧清水市の体験画）

を募集することになりました。

静岡平和資料館をつくる会には、旧静岡氏の空襲体験の絵が 87 点寄せられています。この体験画は、現在世界で頻発している戦争の実態を知るための貴重な資料となり、小・中学校への貸し出しも多く、団体見学の説明の際にも必ず使われています。

6月19日から10月26日まで、39点の空襲体験画が展示されました。

(ニュースレター「明日へ・・・」No.55より)

Tel & Fax: 054-247-9641

E-mail: shizuoka-heiwa@nifty.com

桜ヶ丘ミュージアム：愛知・豊川市

「豊川海軍工廠展」と「戦時資料シリーズ展 代用品にみる戦時下の暮らし展」が2003年7月25日～8月31日の会期で開催されました。

Tel:0533-85-3775 Fax:0533-85-3776

栗東歴史民俗博物館：滋賀

「平和のいしずえ 2003」が特別展示室で、2003年8月1日～31日の会期で開催されました。13回目の今年は、青年学校にスポットをあてた展示会で、図録も刊行しています。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

大津市歴史博物館：滋賀

大津に駐屯した陸軍歩兵第九連隊と大津の町との関わりや、戦時下の大津市民の生

活などを展示する、第33回ミニ企画展「大津・戦争・市民」が、常設展の中のコーナーで、2003年7月23日～8月31日の会期で開催されました。

Tel:077-521-2100 Fax:077-521-2666

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>

立命館大学国際平和ミュージアム

世界報道写真財団による2002年の報道写真を対象とするコンテストの入選作品を展示する、特別展「世界報道写真展2003」が、1階の中野記念ホールで、2003年10月1日～26日の会期で開催されました。

報道写真家影山光洋を主題とする、特別展「知っていますか？日本に戦争があった時代を 影山光洋写真展」が、1階の中野記念ホールで、2003年10月30日～11月30日の会期で開催され、図録も刊行されました。記念講演会は11月5日に開催され、東京大空襲・戦災資料センター館長の早乙女勝元さんが「語りつく戦中・戦後」と題して、影山光洋次男の影山智洋さんが「父・影山光洋について」と題して、それぞれ講演しました。

イスラエルに殺された100人のパレスチナ人の遺影と遺品を展示する、「シャヒード、100の命」展が、同実行委員会主催、立命館大学国際平和ミュージアム共催により、1階の中野記念ホールで、2003年8月15日～31日の会期で開催されました。

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

常設展示の展示室Cに、現今の変動する

世界情勢に焦点をあてる、新コーナー「世界は今」が2003年5月に増設されました。写真と図表による展示ですが、2か月ぐらいで内容を更新しています。

収蔵資料の整理がすすみ、展示室に置かれたパソコンで、収蔵資料や図書の検索ができるようになり、資料の場合は、物の名称から入ると、その名称の収蔵資料について、資料カードと写真が見られるようになっています。

原爆写真・絵画や被爆資料などを展示する、特別展「ヒロシマ・ナガサキ原爆」展が、1階特別展示室で、2003年7月22日～9月14日の会期で開催されました。

実物資料を展示して戦時下のおもちゃの変化を概観する、特別展「戦時下のおもちゃ」展が、1階特別展示室で、2003年9月25日～11月16日の会期で開催されました。

漫画家集団 JAPUNCH が平和をイメージして描いた1コマ漫画などを展示する、特別展「イマジン - 漫画家たちが描いた戦争・平和、愛、そして人間」が、1階特別展示室で、2003年11月25日～12月21日の会期で開催されました。

「21世紀の平和を考えるセミナー」が、第7回はジャーナリストの江川紹子さんによる「江川紹子が見た世界 - 取材メモから - 」が2003年9月27日に、第8回は早稲田大学法学部教授の水島朝穂さんによる「平和憲法のメッセージ - 『軍事力によらざる平和』を実現するために - 」が2003年11月22日に、それぞれ1階講堂で開催されました。

2003年8月9日に8.15終戦の日平和祈念事業として1階講堂で、前大阪城天守閣館長の渡辺武さんが「近代の大阪城 - 今も

残る戦争の傷あと - 」と題して、講演しました。

2002年12月7日に12.8開戦の日平和祈念事業として1階講堂で、太平洋戦史館専務理事の岩淵宣輝さんが「ニューギニア戦跡から学ぶ」と題して講演しました。あわせて、12月6日、13日、14日、20日、21日に同じく講堂で、「映像で見る昭和の歴史」「戦争と青春」「赤錆び色の空」「第五福竜丸」「地球交響曲」がそれぞれ上映されました。

国連軍縮大阪会議関連事業として、大阪国際平和センター・大阪人権博物館・アジア太平洋人権情報センターの共同で、核軍縮フォーラム「平和と人権 - 大阪からの発信」が大阪国際平和センター1階講堂で、2003年8月17日に開催され、大阪国際平和センター会長の武者小路公秀さんが講演し、その後講師と3館の館長・所長がトークを行い、共同アピールを採択しました。

ピースフルステージ2003として、1階講堂で、2003年10月12日に - 音楽は国境を越えて - 「守山俊吾のピースフルコンサート」が、2003年11月8日に「藤木勇人ひとりゆんたく - 沖縄を掘ると今の日本が見えてくる - 」が、それぞれ開催されました。

21世紀の子どもたちにおくる平和のつどいとして、「いいむろなおきマイムソロ」公演が、1階講堂で2003年8月2日に開催されました。

夏休みアニメ特集として、1階講堂で、7月30日には「ピカドン」「木を植えた男」「ぼくは孫悟空 - 手塚治虫物語」が、8月1日には「タイコンデロンがいる海」「約束 - アフリカ水と緑」「火垂るの墓」が、8月

2日には「トビウオのぼうやはびょうきです」「100ばんめのサル」「猫は生きている」が、それぞれ上映されました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.mydome.or.jp/peace>

大阪人権博物館（リバティおおさか）

戦争の犠牲を被るとともに、戦争を支える役割も果たした子どもたちを描く、企画展「アジア太平洋戦争と子ども」が、1階のギャラリーで、2003年7月1日～8月31日の会期で開催されました。

「シャヒード、100の命」展が同実行委員会と同大阪実行委員会の主催、大阪人権博物館の後援により、1階のギャラリーで、2003年10月7日～19日の会期で開催されました。

Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

吹田市平和祈念資料室：大阪

毎日新聞社の報道写真を展示する、写真パネル展「未来を信じて - アフガン難民として生きる子どもたち - 」が、8月19日～31日の会期で開催されました。

「平和映画会」を毎月開催していますが、2003年7月は1993年日本映画で、特攻隊員を描いた「月光の夏」を12・13・26・27日に、8月は1990年日本映画で、中沢啓治さんの体験にもとづく「クロがいた夏」を23・24・30・31日に、9月は1972年ソ連映画の「スターリングラード大攻防戦」を13・14・27・28日に、10月は1997年日本映画の「THE GROUND 地雷撤去隊」を11・

12・25・26日に、11月は1932年アメリカ映画の「上海特急」を8・9・22・23日に、12月は1984年日本映画で、大分の防空壕で餓死した女の子を描いた「ムッチャんの詩」を6・7・13・14日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593

堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）：大阪

フェニックス・ミュージアム特別展「広島・長崎原爆展」が2003年10月30日～11月9日の会期で、堺市教育文化センター図書館棟1階・小ギャラリーで開催されました。

Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

箕面市立郷土資料館：大阪

戦時生活資料展が第1展示室生活資料コーナーで、2003年7月30日～8月31日の会期で開催されました。例年と同様に、学芸員養成課程の実習生が展示制作に関わりました。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694

平和人権子どもセンター：堺市

5月11日に総会が開かれ、吉岡数子代表から2002年度の活動報告が行なわれました。「在満少国民の20世紀」が出版され、平和人権教育実践としての総合学習研究の活動が増えた、「教科書が語る20世紀展」としての教科書パネル貸し出しは、80箇所160件（2001年1月～2003年3月）にな

った、「教科書が語る戦争」など 2002 年ど
の出前展示・講話は、教組学習会、学校の
平和人権総合学習など 20 ヲ所を超えたな
ど、報告が行われました。

(「草の根」第 21 号より)

Fax: 072-227-1453

姫路市平和資料館：兵庫

被爆資料、市民が描いた原爆の絵、原爆
写真ポスターと市内の小中高生の絵画・書
道作品などを展示する、「非核平和展」が 2
階展示室で、2003 年 7 月 19 日から 8 月 31
日の会期で開催されました。関連して、「平
和を共に歌う合唱コンサート」が 8 月 3 日
に、姫路バルナソス合唱団と姫路市児童合
唱団の参加で開かれました。8 月 17 日には
被爆者の首藤好美さんの体験談を聞く催し
が行われました。

大都市や中小都市の空襲とシベリアや大
陸からの引揚げを展示する、企画展「空襲
から引揚げへ」が、2 階展示室で、2003 年
10 月 5 日から 12 月 23 日の会期で開催され
ました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

柿衛文庫：兵庫・伊丹市

特別展「いのちを考える - 戦場から妻へ
の絵手紙 - 」が企画展示室で、2003 年 8 月
9 日～ 9 月 7 日の会期で開催されました。
これは日本画家前田美千雄が戦場や兵営か
ら、残された妻へ送った絵手紙と前田美千
雄のスケッチ・細密画・色紙・短冊などを
展示したのですが、この絵手紙などは妻
の絹子さんから柿衛文庫に寄贈されたもの

です。

Tel:072-782-0244 Fax:072-781-9090

伊丹市立博物館：兵庫

常設展の中に「戦争と伊丹の人びと」の
コーナーが、2003 年 7 月 20 日～ 8 月 30
日の期間、設けられました。

Tel:072-783-0582 Fax:072-784-8109

<http://www.city.itami.hyogo.jp/a-hakubutsukan/html>

広島平和記念資料館

被爆調査活動の文書・写真パネルなどを
展示する、2003 年度第 1 回企画展「原子爆
弾ナリト認ム - 原爆投下後に行われた被爆
調査の軌跡を追う - 」が、東館地下 1 階の
展示室(5)で、2003 年 7 月 25 日～ 12 月
15 日の会期で開催されました。

路面電車をテーマとする原爆の絵を展示
する、展示会「路面電車が語るヒロシマ -
市民が描いたあの日の記憶 - 」が、東館地
下 1 階の展示室(3)で、2003 年 8 月 8 日
～ 2004 年 7 月末までの会期で開催されて
います。

(広島平和文化センター「平和文化」150
号・2003 年 9 月 1 日発行より)

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peacesite/hpcf@pcf.city.hiroshima.jp>

広島市郷土資料館

広島にあった糧秣支廠と被服支廠の歴史

と陸海軍兵士の糧秣・被服の歴史を紹介する、特別展「糧秣支廠と被服支廠展 - 兵士たちの『食』と『衣』 - 」が、2階企画展示室で、2003年10月4日～11月3日の会期で開催され、図録も刊行されました。同時に「戦時下の市民生活」展も1階映像ルームで開催されました。

Tel:082-253-6771 Fax:082-253-6772

高松市市民文化センター平和記念室：香川

「高松空襲写真・パネル展」が、高松市市民文化センターの1階ロビーで、2003年7月1日～6日の会期で開催され、高松空襲直後の被災写真・パネル・絵画などを展示しました。

「高松市戦争遺品展」が、高松市役所1階の市民ホールで、2003年7月28日～8月1日の会期で開催され、高松空襲被災写真や空襲関係の被災品・武器などを展示しました。

「平和記念室収蔵品巡回展」が、高松市の檀紙公民館の2階ホールで、2003年9月5日～9日の会期で開催され、檀紙地区近辺の市民から寄贈された戦争遺品などを展示しました。

「平和記念室収蔵品展」が、高松市市民文化センターの1階ロビーで、2003年11月18日～24日の会期で開催され、戦争遺品を展示しました。

「平和を語るつどい」が2003年7月4日に、高松市市民文化センター3階の講堂で開かれ、広島平和記念資料館の被爆体験証言者の高山等さんが「命の尊さについて」と題して講演し、映画「予言」が上映されました。

「平和祈念親子映画会」が2003年11月22日に、高松市市民文化センター3階の講堂で開かれ、「しんちゃんのさんりんしゃ」と「明日への伝言 - 私たちの町にも空襲があった」が上映されました。

(「平和記念室だより」11号・2003年7月発行、12号・2003年10月発行より)

Tel: 087-833-7722 Fax:087-861-7981

<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sbsenter/heiwa.htm>.

平和資料館「草の家」：高知

今年もピースウェイブで、多彩な活動が6月から8月にかけて行なわれました。平和七夕祭、戦争と平和を考える資料展(高知空襲展、軍隊のない国「コスタリカ」、イラク侵略写真展、日本軍性奴隷被害者写真展)、高知空襲犠牲者追悼会、アジアの人々と連帯する市民の集い、反核平和コンサート、平和行進、平和演劇祭(ミュージカル「はだしのげん」)、高校生平和祭、平和美術展、平和のための子どもの集い、平和映画祭などです。

また9月には槇村浩詩集出版記念の集い、9.18満州事変72周年の集い、東アジアワークショップ報告会、ピースライブ、10月にはバイオミュージックコンサート、受刑者の人権を考える集い、11月には草の家創立記念日の集いがあり、西森茂夫館長の詩文集出版記念会が行なわれました。

また11月3日には、ドイツの歴史学者クラウス・シルヒトマン(Klaus Schlichtmann)氏により、「日本国憲法の

源流と第九条の国際的影響」という講演会が開催されました。

詳細は「草の家だより」を御覧下さい。

Tel: 0888-875-1275 Fax: 088-821-0586

E-mail: GRH@ma1.seikyou.ne.jp

ドイツ館：徳島

6月末に姉妹都市ニーダーザクセン州のブラウンシュヴァイクで「第2回ベートーヴェン『第九』里帰り公演」が実現しました。

日本で『第九』が初めて演奏されたのは、「板東俘虜収容所」においてです。その収容所でのドイツ兵の生活や活動を記念して建てられた「ドイツ館」にとって、「第九」を通してふるさとドイツにまで交流の輪が広がることは意味深いことです。それに加えて、ドイツ兵俘虜の関係者から、80年以上も大事にされてきた数多くの資料が寄贈されました。

(館報「ルーエ やすらぎ」第7号より)

Fax: 088-689-0909

doitukan@city.naruto.tokushima.jp

長崎原爆資料館

浦上天主堂関連の被爆資料を展示する、企画展「浦上天主堂展」が、地下2階の企画展示室で、2003年10月10日～12月17日の会期で開催されました。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

岡まさはる記念長崎平和資料館：長崎

この度 NPO 法人となり、再出発しました。その目的は、次のような資料館設立趣旨の思想を忠実に継承しています。

「日本の侵略と戦争の犠牲となった外国の人々は、戦後50年たってもなんら償われることなく見捨てられてきました。加害の歴史は隠されてきたからです。加害者が被害者にお詫びも償いもしないという無責任な態度ほど、国際的な信頼を裏切る行為はありません。この平和資料館は、日本の無責任な現状の告発に生涯を捧げた岡正治氏の遺志を継ぎ、史実に基づいて日本の加害責任を訴えようと、市民の手で設立されました。政治、社会、文化の担い手は、たとえ小さく見えようとも、一人ひとりの市民です。当館を訪れる一人ひとりが、加害の真実を知るとともに被害者の痛みを思いを馳せ、一日も早い戦後補償の実現と非戦の誓いのために献身されることを願ってやみません。」

(西坂だより第34号より)

Tel: 095-820-5600

沖縄県平和祈念資料館

戦時下の新聞・雑誌・書籍・ピラなどを展示し、情報操作・宣伝による国民統制や少国民育成の実態を伝える、第4回特別企画展「銃後を護れ - 戦時下のくらしと情報統制 - 」が、企画展示室で、2003年10月10日～11月30日の会期で開催され、図録も刊行されました。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-musem.pref.okinawa.jp>

戦跡保存全国シンポジウム開催

第7回戦争遺跡全国シンポジウムが、8月23-24日に大分県宇佐市で開催されました。宇佐市は宇佐海軍航空隊の基地として、多くの特攻隊が出撃していった基地の街であり、数多くの戦争遺跡が現存しています。全国から350人が集いました。

記念講演では、一橋大学名誉教授の永原慶二氏が「戦争遺跡と歴史認識」と題し、「若者に死を命ずる戦争とは何か。国家とは何か。そうした点を歴史認識の問題として、生き残ったものが問い詰めていく義務がある。戦争遺跡を、戦争をめぐる歴史認識の基礎にまで高めなければならない。人々の歴史意識・歴史認識は事実を深く見つけた批判精神によってのみ高まる」と結ばれました。

大会アピールとして、「戦争の実相を語り継ぎ、あらゆる戦争を許さない世論をつくるため、戦争遺跡保存の運動をさらにすすめましょう」が採択されました。

(松代大本営の保存をすすめる会ニュース「保存運動」第153号より)

出版物、ビデオなど

ビデオ

- * 「マンガンに生きた朝鮮人と部落」
丹波マンガン記念館
(Tel: 07715-4-0046 Fax: 07715-4-0234)
- * 「沈黙の歴史をやぶって:女性国際戦犯

法廷の記録」(英語版もあります)
ビデオ塾・VAWW-NET Japan 制作
Tel & Fax: 03-3401-8944

- * Greenam: the making of a monument
イギリスの女性の反核運動を記念した母子像ができ、その記録ビデオ。(英語)
Greenhamsculpture@hotmail.com
www.wfloe.fsnet.co.uk

書籍

- * 「花いばら：たきおさむ詩集」(高知市平和資料館館長西森茂夫氏の詩集 連絡先：草の家
Tel: 088-875-1275
- * Toward Nuclear Abolition: A History of the World Nuclear Disarmament Movement, 1971-Present by Lawrence S. Wittner (Stanford University Press 2003)
1971年から今日までの世界の軍縮運動に関する本です。(英語)

カンボジアでも平和博物館を！

高知・平和資料館「草の家」
山根和代

9月にカンボジアで軍縮教育を推進するために、英語でワークショップをしてきました。1999年のオランダのハーグにおける平和集会でハーグ平和アピール(Hague Appeal for Peace: HAP)が出され、軍縮・平和教育を推進していくことが決められました。現在、国連、HAPと一緒に世界各

地で軍縮・平和教育を推進しています。特にヨーロッパでは、アルバニア、アジアではカンボジア、南米ではペルー、アフリカではニジェールで重点的に行われています。アジアでは日本の政府がカンボジアを支援しており、日本から専門家を送ることになり、参加させていただきました。

カンボジアではWGWR(Working Group for Weapons Reduction 小型武器削減のために活動しているNGO)で、高校生の軍縮教育カリキュラムをどうするのかということに焦点を当ててワークショップを行いました。その際、日本の平和博物館の紹介をし、特に立命館大学国際平和ミュージアム、そして高知の平和資料館「草の家」を重点的に紹介しました。

学校だけでなく、地域でも平和教育推進に大きな役割を果たすことができる平和資料館・博物館をカンボジアでも創りたいとのこと、しかし資金不足なので、当面学校に、平和のコーナー、平和の部屋を作ってみたいということになりました。

国連が出版している「世界の平和博物館」のガイドブックでも明らかにされていますが、日本の平和博物館は、先進的な存在です。

現在「平和のための博物館・市民ネットワーク」が創られ、情報や意見の交流が可能になってきました。国内では勿論ですが、海外の平和博物館との結びつきを強化することが問われていると考えさせられました。

韓国で平和博物館を創る活動が開始し、またインドとパキスタンの国境にも平和博物館を創りたいという動き、アメリカでも平和博物館ネットワークを創っていきいたいという動きもあり、日本の平和博物館の活

動が注目されているようです。

海外から Muse の感想

年2回英文ミュージズを発行していますが、海外からの感想を紹介します。

* イギリス在住のオランダ人平和研究者
Dr. Peter van den Dungen (平和博物館国際ネットワークのコーディネーター)より

送っていただいたミュージズは、端から端まで読みました。いつ読んでも、非常に興味深いです。そしていつも新しい平和博物館のニュースがあり、しかも一つではなくいくつもあって、驚いています！

特に東京で建設が予定されている「女たちの戦争と平和資料館」について、関心を持って読みました。今後、実現しそうで嬉しく思っています。

(10月14日)

* ドイツ在住の**カメルーン**出身の
Leonard Jamfaさんより

Muse No. 9を送って下さいまして、本当に有難うございました。御存知のように、私は皆さんの活動を大変尊敬しております。というのは、日本は戦争があっても生き延び、国を再建したからです。私達アフリカの人々は、日本と日本人から大いに学ぶことができると思います。ですから皆さんの活動をお知らせくださって、本当に感謝しております。皆さん、お元気にお過ごし下

さい。 (10月24日)

* **ウガンダ**のアフリカ女性組織
Isis-WICCEのJuliet Were Oguttuさんより
(11月3日)

女性をめぐる問題を解決するために、努力されていることは、素晴らしいことであると思っています。ミュージズは、記録センターで非常に役に立つ資料であり、様々な研究者、活動家、学生によって活用されると思います。今後も協力していくことを、楽しみにしています。

* **ハンガリー**のBOCS Foundationの
Gyula Simonyiさんより

ミュージズを送って下さりまして、ありがとうございます。次からは、メールで送って下さい。印刷代や送料が不要ですし、私達が保存し、検索し、引用するのに容易だからです。
(7月29日)

* **翻訳者、募集** *

次号の海外のニュースレターは、かなり分厚くなりそうです。ボランティアで翻訳、あるいは要約する方を募集しています。少しでも構いませんので、是非協力をお願い致します。(連絡は、山根までお願いします。
kyamane@sings.jp)

